

066 人々はしるしを欲しがる他

マタイによる福音書 12 : 38～45、16 : 1～4、マルコ 8 : 11～12、ルカ 11 : 24～26、29～32

▶人々はしるしを欲しがる（マタイによる福音書 12 : 38～42）

38 すると、何人かの律法学者とファリサイ派の人々がイエスに、「先生、しるしを見せてください」と言った。

39 イエスはお答えになった。

「よこしま（→邪）で神に背いた時代の者たちはしるしを欲しがるが、預言者ヨナのしるし（→預言者ヨナに起こったこと、つまり死んで、生き返るというしるし）のほかには、しるしは与えられない。

→神は預言者ヨナを選び、アッシリアの首都ニネベの人々に悔い改めて、神の赦しを求めるように語らせようとした。ヨナは神がイスラエルの敵であるアッシリアを赦されるのを望まなかったのだから、船に乗って逃げた（ヨナ書 1 : 3）。しかし、神は嵐を起こし、ヨナは海に放り出され、巨大な魚に呑み込まれ（ヨナ書 1 : 12～17）、三日間の間、魚の腹の中に留まってから吐き出された（ヨナ書 2 : 10）。イエスはヨナが大魚の腹の中で過ごした日数と、イエスご自身が墓の中で過ごす日数を比べている。

→イエスの教えは、見る⇒信じる信仰から信じる⇒見る信仰である。

→ヨハネによる福音書 20 : 29

イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」

40 つまり、ヨナが三日三晩、大魚の腹の中にいたように、人の子も三日三晩、大地の中にいることになる。41 ニネベの人たちは裁きの時、今の時代の者たちと一緒に立ち上がり、彼らを罪に定めるであろう。ニネベの人々は、ヨナの説教を聞いて悔い改めたからである。ここに、ヨナにまさるものがある。42 また、南の国の女王（→アラビアの国シェバ Shiva の女王で、シェバはアラビア半島の南端、今のイエメン付近に存在した国である。）は裁きの時、今の時代の者たちと一緒に立ち上がり、彼らを罪に定めるであろう。この女王はソロモンの知恵を聞くために、地の果て（→アラビアの国）から来たからである。ここに、ソロモンにまさるものがある。」

→列王記上 10 : 1～10、歴代誌下 9 : 1～12

→列王記上 10 : 1 シェバの女王は主の御名によるソロモンの名声を聞き、難問をもって彼を試そうとしてやって来た。

→イエスは、その昔にシェバのような異邦人がユダヤ人の王から学ぶことができたのに、なぜユダヤ人の指導者が同胞であるイエスの言葉を受け入れないのかと指摘している。



▶汚れた霊が戻って来る（ルカによる福音書 11 : 24～26）

43 「汚れた霊（＝悪霊→多くの病気や心の病の原因とされていた）は、人から出て行くと、砂漠をうろつき、休む場所を探すが、見つからない（回復訳：汚れた霊が人から出て行くと、水のない場所を歩き巡って、休み場を捜すが、見つからない。→∵悪鬼は乾いた所では休息する所を見つけないので、もともと占領していた人の体に戻り、そこに住み着く）。44 それで、『出て来たわが家に戻ろう』と言う。（そして）戻ってみると、（家は）空き家になっており、掃除をして、整えられていた。

45 そこで、出かけて行き、自分よりも悪いほかの七つの霊と一緒に連れて来て、中に入り込んで、住み着く。そうすると、その人の後の状態は前よりも悪くなる。この悪い（今の）時代の者たちもそのようになろう。」

→リビング・バイブル：この邪悪な時代に生きる人たちは、ちょうど悪霊につかれた人のようです。せつかくその人から悪霊が出て行っても、しばらくの間、悪霊は別の住みかを求めて荒野をあちこち歩き回るだけです。結局、適当な場所が見つからないので、『もとの家に戻ろう』と帰ってみると、その人の心はきれいに片づけてあり、しかも空っぽです。そこで、しめたとばかり、もっとたちの悪い七つの霊を連れ込んで、住みついてしまうというわけです。こうすると、その人の状態は以前より、はるかに悲惨なものとなります。」